

5

4

3

2

1

うち なー たま みじ 沖縄玉水ネットワーク 5年のあゆみ

活動5周年記念誌

UCHINA TAMAMIJI Network 5th Anniverary



うちなー たま みじ
沖縄玉水ネットワーク

Uchina TAMAMIJI Network 5th Anniversary

活動5周年記念誌



C O N T E N T S

会長あいさつ	2
設立趣旨	3
沖縄玉水ネットワーク会則	4
これまでの主な活動	5
沖縄玉水ネットワーク構成団体	6
主な活動実績を写真で紹介	7
会員名簿	11
第1章 沖縄玉水ネットワーク5年のあゆみ	13
発足準備会から「沖縄の水と川」を考える フォーラム開催へ	
「多自然川づくりに関する研究発表会」 定期開催へ	
第2章 沖縄玉水ネットワーク創設5周年記念座談会	24
長堂川見学会を終えて 創立から5年の活動を振り返って 今後の方向性と課題	
第3章 資料編 活動実績・年表	38
情報発信(河川に関する情報発信の記録)	40

会長あいさつ

Greeting



沖縄玉水ネットワーク
会長 松本 好郎

沖縄玉水ネットワーク5周年を迎えて

平成14年に設立された玉水ネットワークの会員は、沖縄本島内で活動する13団体及び関係する行政・地域の住民等横のつながりの協働体制を今後の川づくりに反映させることを目的に設立された。川の美化活動に取り組む13団体の市民団体と行政から沖縄総合事務局と沖縄県が参加し、初代会長に比謝川を蘇生させる会会長の中根章氏が就任し、河川に関する情報を発信することが確認され、同年9月には、「沖縄の水と川を考える」フォーラムが6分科会に分かれて討議がなされた。

平成15年には河川整備基金助成開始(5年連続)され「子どもの水辺」九州ブロック会議参加報告や各研究会発表、循環型農業の事例報告(キューバ)等がなされた。

平成16年には第1回総会がなされ玉水ネットワークの運営について、役員及び事務局、新規団体参加、水辺空間再生調査、玉水ネットワーク新聞の発行とその他情報の提供等、多自然型川づくりに関する研究発表及び講演会、研究発表としては、多自然型川づくり「内川の設計について」小波津川における住民合意の創意工夫について講演会が実施された。

平成17年に「おきなわ川のはなし」を発行。これまでの活動の成果を編集し、県内の小中学校に配布し総合学習で沖縄の川についての教材として活用されている。平成18年、各団体からの報告があり、安謝川、石川川、国場川、報得川等の研究発表、大保川における多自然川づくり、河湖林における近自然工法の河道整備(宮良川)その他講演会を実施した。

平成19年度は事務局を沖縄建設弘済会に、ホームページを開設し、各団体の情報を提供。玉水ネットの5ヵ年のあゆみ、川の学校、報得川イベントの実施、その他多くの行事が各地域で実施されたことに対し、今後、益々会員皆さんと沖縄玉水ネットワークの充実と発展を祈念致します。

平成20年5月

設立趣旨

Concept

「沖縄玉水ネットワーク」は、沖縄本島内の河川の清流の復元と自然環境保全等を行い、美しく賑わいのあるより良い河川環境の実現を図るため、その具体化に向けた各種活動及び各河川愛護団体との交流を図ることを目的としています。

ネットワークの構成としては、沖縄本島内に活動拠点を置く13の河川愛護団体と沖縄総合事務局、沖縄県、マスコミ等で組織し、平成14年7月に発足しました。

また、平成17年度より(社)沖縄建設弘済会に事務局をおき、様々なネットワーク活動が円滑に行われるよう支援を行っております。

沖縄玉水ネットワークとは？

「沖縄玉水ネットワーク」は、沖縄本島内の河川の清流の復元と自然環境保全等を行い、美しく賑わいのあるより良い河川環境の実現を図るため、その具体化に向けた各種活動及び各河川愛護団体との交流を図ることを目的としています。

ネットワークの構成としては、沖縄本島内に活動拠点を置く13の河川愛護団体と沖縄総合事務局、沖縄県、マスコミ等で組織し、平成14年7月に発足しました。

また、平成17年度より(社)沖縄建設弘済会に事務局をおき、様々なネットワーク活動が円滑に行われるよう支援を行っております。



「玉水(たまみじ)」とは？

水滴状の水が、光を受けたときにキラキラと光り輝く様をいう。

その状態がまるで宝(=玉)のようだから玉水(たまみじ)という。



沖縄玉水ネットワーク会則

Regulations of a society

名 称

第一条 本会は「沖縄玉水ネットワーク」と称する。

目 的

第二条 本会は、沖縄県内の河川をフィールドに活動をしている団体がお互いに情報を交換し、必要に応じて連携して、河川に係わる情報の発信や実践活動を進めることを目的とする。

活 動

第三条 本会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。
1) 構成団体の活動状況、河川に関する様々な情報の発信を行う。
2) 構成団体の活動状況の報告会や勉強会・シンポジウムなどを開催する。

会 員

第四条 会員は本会の目的に賛同した団体で構成する。

役 員

第五条 本会は下記役員をおき、会員の中から互選する。
役員の任期は1年(1年度)とし、再任は妨げない。
1) 代表(1名):
会の決議により会の代表を設けることができる。
2) 副代表(2名):
代表を補佐する副代表を会の決議により設けることができる。
3) 事務局
会務を運営する。
沖縄県建設弘済会に事務所を設ける。事務局長は副代表が兼ねる。

ネットワーク会議

第六条 会員からの発起により代表が召集する。

会則の改定

第七条 会員からの発議により議決し賛成多数で会則の改定を行うことができる。

(附則) 本会則は平成14年7月15日から施行する。

(附則) 本会則は平成17年8月24日から施行する。

これまでの主な活動

Current activity

日付	内容
平成14年 7月	沖縄玉水ネットワーク設立
平成14年 9月	「沖縄の水と川を考える」フォーラム開催
平成15年 3月	フォーラム記録集 印刷・配布
平成15年10月	平成15年度多自然型川づくり講演会開催
平成15年10月～ 平成16年 3月	「川の歴史記録調査」を実施(比謝川・天願川・報得川)
平成16年 3月	多自然型川づくり講演記録集 印刷・配布
平成16年10月	平成16年度多自然型川づくり講演会開催
平成17年 3月	沖縄玉水ネットワーク新聞「たまみじ」創刊 多自然型川づくり講演記録集 印刷・配布
平成17年 5月	川の参考書「おきなわの川のはなし」発行
平成17年10月	平成17年度多自然型川づくり講演会開催
平成17年12月	天願川水辺の散乱ゴミ指標・評価全国施工調査
平成17年12月	矢作川方式による濁水対策実演と展示(中城湾港自由貿易地域)
平成18年11月	平成18年度多自然型川づくり講演会開催
平成20年2月	現地見学会の開催(長堂川) 5周年記念座談会開催

沖縄玉水ネットワーク構成団体

平成20年3月末現在

代 表 松本好郎
副代表 寺田麗子
" 高平兼次

②源河川にアユを呼び戻す会

③幸地川を蘇生させる会

①奥川にアユを蘇生させる会

⑨いひちや一川（石川川）を蘇生させる会

④比謝川をそ生させる会
⑤Y o u ・ 遊 ・ 比謝川実行委員会

⑩うるま市水と緑を考える会

⑪白比川の自然を残す会

⑫安謝川をきれいにする住民の会

⑥久茂地川
フェ スティ
バル 実行委
員会

⑬長堂川に清流をとりもどし山川の
生活環境をよくする会

⑦国場川に清流
をとり戻す会

⑧報得川と美海の会

その他団体	沖縄テレビ放送 報道部
行 政	沖縄総合事務局開発建設部 河川課、流域調整
行 政	沖縄県土木建築部 河川課
行 政	沖縄県企業局 配水管理課
公益法人	(社) 沖縄建設弘済会 技術環境研究所

主な活動状況を写真で紹介

過去の活動(講演会・総会・座談会)



「沖縄の水と川を考える」フォーラム(H14.9.16/うるま市川崎小学校)



H15多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会



H15多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会



H15多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会



H18 久茂地川活動



H16年次総会



H17多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会



H17年次総会



H18年次総会



H19年次総会



沖縄玉水ネットワーク5周年記念座談会
(H20.2.27/南風原町山川公民館)

主な活動状況を写真で紹介

過去の活動(清掃・調査・見学会)



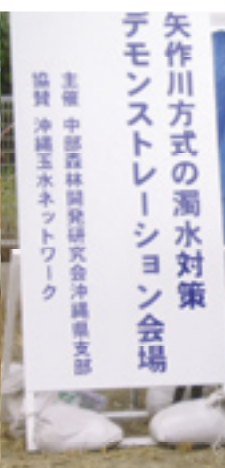
源河アユ産卵場 (H17.10.20)



大保試験施工 (H17.10.20)



源河アユ産卵場指導状況 (H17.10.20)



矢作川方式による濁水対策の実演と展示
(H17.12.11/中城湾港自由貿易地域)



久茂地川沿川の利用についての現地調査 (H18.8.4/那覇市久茂地川)



水辺の散乱ゴミ指標評価調査
(H17.12.4/天願川)



「川の歴史記録活動調査」地域からお年寄りを先生に、昔の船着場跡で説明を受ける小学生(H17/国場川)



長堂川クリーンアップ作戦(H2～)



報得川水質調査(H19.9.8/報得川)



報得川水質調査(H19.9.8/報得川)



長堂川現地見学会(H20.2.27/南風原町)



会員名簿

List of members

沖縄玉水ネットワーク事務局構成

役職	氏名	所属
代表	H14 中根 章	比謝川をそ生させる会
代表	H15～ 松本 好郎	報得川と美ら海の会
副代表	H14～ 寺田 麗子	久茂地川フェスティバル実行委員会
副代表	H15～ 高平 兼司	うるま市水と緑を考える会
幹事	H19～ 崎山 正美	報得川と美ら海の会
幹事	H19～ 嘉数 芳則	国場川に清流を取り戻す会

沖縄総合事務局 開発建設部 河川課
沖縄県 土木建築部 河川課
(社) 沖縄建設弘済会 技術環境研究所

■沖縄玉水ネットワーク会員名簿

	河川名	団体名	役職	氏名	団体紹介
①	オウガワ 奥川	川にアユを蘇生させる会	会長	タ マ キ ツヨシ 玉城 壮	平成13年から奥小学校の児童を中心に、アユの放流会に参加し、奥川の水質、河川生物の調査、観察等を行ってきました。平成16年からヤンバル河川海岸自然再生協議会に参加。平成19年から奥川自然再生協議会に参加し、本来の奥川の再生を目指して活動を続けている。
			事務局長	イトマン 糸満 盛也	
②	ゲンカガワ 源河川	可川にアユを呼び戻す会	会長	インカワ ホ セ 石川 保世	清流のシンボルであり、源河川の自慢だったリュウキュウアユの絶滅を契機に、1986年に「源河川にリュウキュウアユを呼び戻す会」が発足した。源河区民全員が参加し、子供達にふるさとの魚を返そうと始めた活動は県内外へ協力の輪が広がり、1994年にアユ復活を実現したが、現在も河川での自然繁殖とアユによる地域活性化を目指し活動中。
			副会長	シマフク ヨシヒロ 島福 善弘	
			副会長	キンジョウ タツフミ 金城 達文	
			事務局長	セ ラ ガキ ミツフ 瀬良垣 貴	
③	コウチガワ 幸地川	也川を蘇生させる会	会長	キ セ アサコ 喜瀬 アサコ	桜祭りでは知られる名護岳のふもとを流れ、ピンブンガジュマルの影を映す幸地川は、名護市民の故郷の川だ。婦人会を中心に20年以上の活動実績を持つ幸地川を蘇生させる会では、毎月第二土曜日の朝7時から清掃活動を継続しており、護岸への花植え時には毎日交替で水遣りを行うなど、観光地にふさわしい景観に配慮している。現在、賛助会員と一般会員を合わせて152人が活動している。
			副会長	ワウガワ コ 湧川 つや子	
			副会長	ナカホド ト ミ コ 仲程 富子	
			書記	タ マ キ コ 玉城 たく 子	
			会計	グシケン ハツエ 具志堅 初枝	
④	ヒジャガワ 比謝川	射川をそ生させる会	会長	ナカネ アキラ 中根 章	「比謝川を顔が洗える川にしよう」と1974年12月にそ生させる会の活動を始めてから今年で34年になる。その間、関係機関への要請と提言、定期的な踏査と水質検査、流域の動植物の調査、下水道併用の促進、子どもの国ダムのレクリフターの設置、シンポジウムと講演学習会の開催、モーアシンビーコンサート、体験学習のための水田づくり、川と水と人間と(1集～4集)の発刊等比謝川に清流を取り戻すための活動をしてきました。これからもこの間の活動の成果を踏まえ楽しく浄化のための活動を続けていきたい。
			副会長(兼事務局長)	アサト ケンビ 安里 賢美	
			副会長	カミヤマ ミツオ 神山 満夫	
			事務局長	マ エ シロ ケントウ 真栄城 玄德	
				ワウケ コ 和宇慶 ミツ 子	
⑤	ヒジャガワ 比謝川	U・遊・比謝川実行委員会	実行委員長	ウエチ アキヒロ 上地 昭広	比謝川に清流を取り戻し、町の活性化に繋がってほしいと、町内の若者で組織する団体で1988年結成。今年度で21年目を迎え、嘉手納町連合青年会、嘉手納町商工会青年部、嘉手納町職員労働組合、RMDの4団体で実行委員会を組織をしている。毎月第3日曜日を活動の基準日として、7月の河童まつり、6月の川下りを中心にクリーンディ(清掃活動)、川学校(学習活動)、植樹活動などを年間を通して行っている。比謝川も多くの努力のおかげで、着実に浄化が進んでおり、県民の貴重な水源を守るためにも、この運動を継続して実施していきたい。
			副実行委員長	トモヨセダイスケ 友寄大将	
			副実行委員長	イレイ ミツル 伊禮 満	
			事務局長	イケマ マコト 池間 誠	
			事務局長	カミヤマ ヨシアキ 神山 吉朗	
⑥	ク モ ジガワ 久茂地川	久茂地川フェスティバル実行委員会	会長	キンジョウ ユキマツ 金城 幸松	那覇市の顔となる都市河川で市民主催の川祭りを開催。1986年から1995年までの10年間にわたって久茂地川でボートレースや流域巡りなどのプログラムを通して川への関心を高める活動を展開した結果、川の水質が十分の一にまで浄化され、県内各地の住民活動が生まれるきっかけとなった。現在は活動休止中だが、川祭りをきっかけに結成された久茂地川通り会が定期的に清掃活動を継続している。
			実行委員(会員)	サキヤマ マサミ 崎山 正美	
			会員	テラダ レイコ 寺田 麗子	

	河川名	団体名	役職	氏名	団体紹介
⑦	コクバガワ 国場川	国場川に清流をとり戻す会	会長	タマキ コウジ 玉城 幸治	「安全、安心、衛生的な街づくり」を目的に、地域を流れる「国場川」をキーワードとして、平成8年から活動を始める。主な活動に、・学校、PTA、自治会など地域と連携し、国場川沿いの地域や漫湖の清掃。「清流が流れていた当時の国場川」のことを、地域の小学校、中学校で講話するなど、学習支援をしている。毎年五月には「国場川こいのぼりまつり」を開催している、このまつりは「少年に夢を、青年に希望を、お年寄りに誇りを…そんな街に住みたい」をテーマに、国場川の環境問題を提起しながら、子供達やお年寄りがつくった、「手作りのこいのぼり」を一月程掲揚し、「舞台発表」や「学習成果の展示等」も行い、地域みんなで、まつりを楽しんでいる。今年で12回目を数えた。「平成19年度 那覇市社会教育優良団体」表彰を受ける。
			事務局長	カカズ ヨシナリ 嘉数 芳則	
			まつり実行委員長	シンジョウ タツオ 新城 龍夫	
				ナカチ マサヒデ 仲地 政英	
⑧	ムクエガワ 報得川	報得川と美海の会	会長	マツモト ヨシロウ 松本 好郎	1998年(平成10年)2月15日に、「報得川の再生と周辺の美化と安全・環境整備に留意しつつ、陸と川と海と人のかかわり方を通して地域社会に貢献する」目的で、60名の市民が参加し結成された。現在会員は減少しつつあるが、野鳥観察会や自然観察会、イノー巡り等の他、清掃活動などを行っている。特に平成17年度に日本一汚い川になった事で、市民の関心が高くなってきており、普及事業に参加する市民は増えてきている。
			副会長	オオシロ シズエ 大城 静江	
			事務局長	マエザト ヤスヨシ 真栄里 美保	
			書記・会計	ウエハラ ヒトシ 上原 仁	
⑨	イシカワガワ 石川川	いひちや一川を蘇生させる会	会長	イケハラ コ 池原 トモ子	2003年に石川川を市民の手で蘇えらせようと発足した。30人の会員が毎月第三日曜日の清掃活動を継続しながら、季節毎に子供たちを中心としたプログラムを展開している。川遊びや親子カヌー体験、しじみ・エビ採りの他、ミニ動物園なども川沿いで開催し、市民の関心を高めようと呼びかけている。
			副会長	トグチ ヒロユキ 渡久地 博之	
			副会長	ナカザ マサヨシ 仲里 正義	
			事務局長	ヤマダ コウイチ 山田 光一	
⑩	テンガンガワ 天願川	うるま市水と緑を考える会	会長	テルヤ イサム 照屋 勇	河川法の改正に伴い、天願川河川改修工事の市民側の意見のとりまとめ役となるために、1996年(平成8年)に設立準備会を開き、翌年5月に有志が集まって正式に発足した。主な活動は、河川行政サイド(中部土木事務所)と業者との他自然型河川工法による改修工事の協議、子どもたちといっしょの水生物調査や水質調査、排水溝のリレー式24時間水質観測などを実施している。また、1989年(平成元年)より続いている天願川デー(近年は主に清掃活動のみ)の実行委員会の主要メンバーとして活動し、2007年(平成19年)より開始された、天願川清流祭り(うるま市女性連合会主催)にも協力している。今後の活動としては、天願川命名遊びなどを予定している。現在会員は約50名である。
			副会長	スズキ ヨシオ 鈴木 善雄	
			副会長	チネン ノブツネ 知念 信恒	
			事務局長	タカヒラ カネシ 高平 兼司	
⑪	シラヒガワ 白比川	白比川の自然を残す会	副会長	ナカチ キヨシ 仲地 清志	昭和58年、白比川の自然を残す会結成以来、年2回の河川清掃、町内4小学校2中学の児童生徒を対象に、川の図画・作文コンクールの実施活動等をおこなってきた。初代の会長さんと3代目の会長さんも世を去り、役員体制もつれないまま、活動休止の状態である。しかしながら、過去の活動で影響を受けた小中学生も今や中堅の大人に成長している。その中からリーダーシップのとれる人材が登場することを願いながら現在は各学校からの要請を受けたときに、河川の案内等の活動を継続している。又、河川改修工事もおおずめを迎えている事から、県河川課と関連のある中部土木事務所が核となり、流域自治体、学者、コンサルタント会社等を網羅して河川改修のあり方を議論する場「白比川懇談会」が発足、そこにも白比川の自然を残す会会員3名で関わっている。
⑫	アジャガワ 安謝川	安謝川をきれいにする住民の会	代表	フモト 府本みほ	1995年に安謝川の浄化を目的として、「安謝川をきれいにする首里住民の会」としてスタート。その後、「安謝川をきれいにする住民の会」と名称を変え、活動を継続。会の立ち上げには、協働する市民団体の育成が必要と考えた当時の環境公害課(現、環境政策課と環境保全課)の後押しもあり、行政と協働で事業を実施するスタイルが現在も続いている。河川浄化の啓発など様々な活動を実施してきたが、定番は、13年間継続している河川清掃(安謝川クリーン作戦)。2006年度からは那覇市立森の家みんなの協働で、毎月第2土曜日の10時から12時頃まで清掃活動(参加費無料)を行っている。
			事務局長	フジイ ハルヒコ 藤井 晴彦	
				イシノ ケイコ 石野 桂子	
				イシハラ ヤスエ 石原 恭枝	
⑬	ナガドウガワ 長堂川	長堂川に清流をとりもどし山川の生活環境をよくする会	会長	カミザト ヒロアキ 神里 博明	山川集落前を流れる国場川水系上流の準用河川長堂川約1,500mは、昭和40年代後半から畜舎からの糞尿による悪臭が発生し、昭和52年10月に山川地区の抗議集会を機に平成2年全区民を会員とした当会を結成し、畜産業者に抗議と陳情をくりかえし、地域の衛生思想の高揚により悪臭は大幅改善された。現在は長年続いている河川周辺の高揚により悪臭は大幅改善された。現在は長年続いている河川周辺の清掃作業(年2回)を継続して実施している。
			副会長	カミザト ヨシミツ 神里 良光	
			〃	ミヤギ カンジユン 宮城 寛諱	

第1章 沖縄玉水ネットワーク 5年の歩み

平成14年度

6月10日 発足準備会開催

場所:嘉手納水道局マルチメディアセンター



発足準備会では設立に向けて、様々な議論が交わされた

本島内で活動する7団体及び関係行政から20名余が参加し、ネットワークの発足へ向けて活発な意見交換を行った。地域住民活動の横のつながりと行政との協働体制を今後の「川づくり」に反映させることを目的に、沖縄玉水ネットワークの設立総会を7月15日に開催することを確認。参加者から「問題意識をもち、情報交換し皆で考える場が必要」と必要性を要望する声と「行政に河川への考え方を話しても見解が違ふ。河川管理に様々な意見を取り入れて欲しい」との要望も出された。設立総会までに河川愛護団体に広く参加を呼びかけることを確認した。

7月15日第1回沖縄玉水ネットワーク設立総会

場所:沖縄市水道局

川の美化活動に取り組む13の市民団体と沖縄総合事務局と沖縄県が参加。中根章・比謝川をそ生させる会会長は「住民と行政が意見を出し合える場が出来たことは意義深い。行政へどんどん意見を言うことが大事。これを機に活動を活発化させたい」と話した。9月初旬に設立記念イベントの開催と、河川に関する情報発信をすることを確認した。



県内初の川づくりネットワーク設立総会

9月16日「沖縄の水と川を考える」フォーラム主催

場所:具志川市立川崎小学校

進行:徳永敏朗(沖縄総合事務局河川課水資源開発調整官)

内容:6分科会に分かれ討議、その後全体会議

沖縄の水と川を考えるフォーラム分科会テーマ

第1分科会「水利用のあり方」～中南部の自助努力～

座長:神山満夫

沖縄本島の水供給は、本島北部のダム及び河川からの供給がその大半を占めている。これ以上の水供給負荷を本島北部に求めるだけでなく、雨水や下水処理水等を水洗トイレ用水などへ有効活用することなど、節水対策の推進を特に中南部で進めるにあたっての課題等について議論した。



フォーラムでは熱心な議論が交わされた

第2分科会「河川の浄化対策」～特に畜舎排水について～ 座長:崎山正美

河川環境問題の大きな柱として水質問題がある。そして、水質汚濁の最も大きな要因として畜舎排水がある。平成11年に「家畜排泄物の適正化及び利用の促進に関する法律」が施行され、平成16年には「構造設備基準、施設管理基準」が適用されることとなっているが、いろいろな課題が考えられる。これら課題を整理し解決策を模索する。

第3分科会「魅力のある河川愛護活動の取り組み」～活動を継続するために～ 座長:神山吉朗

河川愛護活動を継続し発展的に取り組むため、活動組織の若返り方策や魅力ある活動方策について、イベント(遊び心)やエコツーリズムや環境保全活動(清掃)などをふまえ議論した。

第4分科会「川での総合学習」 座長:松本好郎

小中学生を対象とした河川における総合学習のあり方について学校現場での取り組みと問題点、そしてその解決方策、河川NPOの総合学習への係わり、学習内容の向上をはかるための方策など、川での総合学習に係わる様々な項目について議論した。

第5分科会「市民グループと河川のあり方」～市民と行政の協働について～ 座長:高平兼司

河川管理を市民グループが行うための今後の取り組みについて官と民の役割分担、責任の所在等を踏まえ、新たな仕組みづくりについて議論した。

第6分科会「魅力ある川づくりと住民参加」 座長:寺田麗子

河川工事に先立って住民と協働で計画を作り上げるために天願川や白比川の事例を紹介し、どのような川づくりを目指すのか、どのような工法が良いか、ハブ対策や転落防止柵のあり方等について行政側と住民側の考えの整合を図るための議論を行った。

情報発信

『河川』2002-10月号掲載
 「沖縄の水と川を考えるフォーラム」について～「沖縄玉水ネットワーク」発足を記念して～
 三輪賢志(沖縄総合事務局開発建設部河川課長)



第1章

沖縄玉水ネットワーク
5年の歩み

平成15年度

7月7日 年次総会

場所:沖縄市水道局2F会議室

議事内容

1. あいさつ、自己紹介
2. 玉水ネットワークの運営について
3. 今後の活動内容について
4. 玉水ネットワークHP(沖総局開発建設部)コーナー開設について
5. その他情報提供等

●「子どもの水辺」九州ブロック会議参加報告
(沖縄県及び沖総局流域調整室)

●社会資本整備重点計画法について(沖総局河川課)

市民団体と沖縄総合事務局・沖縄県が参加し、情報の交換や発信を行いながら沖縄の川の美化に取り組む「沖縄玉水ネットワーク」が発足し1年が経過した。今回の総会にはオブザーバーとして西原町役場土木課から2名、沖縄県企業局から3名の参加があった。

議事では、川づくり計画への参画(案)や畜産排水対策に関する勉強会(案)についての活動計画について話し合われた。予想される懸案事項として、以下の3点が提出された。

- ① どのように流域住民の参画を促すか
- ② 玉水ネットとしてどこまでお付き合いができるか
- ③ 実施設計および施工行程との摺り合わせが可能か

また、玉水ネットワークと学校が連携して作成する「川の歴史記録」活動について、

- ① 手引き書編集委員会を設置について
- ② どの川(どの学校)を対象にするか

などの主な確認事項や、具体的な計画案が話し合われた。さらに、玉水ネットワークHP(沖総局開発建設部)コーナー開設についての報告があった。

情報提供として

- ①「子どもの水辺」九州ブロック会議参加報告(沖縄県及び沖総局流域調整室)
- ②社会資本整備重点計画法について(沖総局河川課)

などの告知がなされた。

10月より 「市街地における水辺空間再生調査」実施:比謝川・天願川・報得川

目的:市街地河川の過去の姿(原風景)を、地域住民への聞き取り調査などにより明らかにするものであり、その成果を「水と緑のある美しい都市づくり」に反映させること。

調査内容:3時代(昭和初期～戦前、戦後～復帰、復帰後～現在)の航空写真

- ・3時代の流域環境の変遷(人口、土地利用等)
- ・聞き取り調査から得た河川の風景イメージ図
- ・懇談会、聞き取り等の実施概要
- ・懇談会等での主な発言内容
- ・水辺空間再生の提案(任意の区間)

実施団体および機関:風水舎・沖縄県公衆衛生協会・事務局・比謝川を蘇生させる会
YOU・遊・比謝川実行委員会・具志川市水と緑の会・報得川と美ら海の会
報告書:4分冊(概要版、比謝川編、天願川編、報得川編)に編集・発行された。



平成15年度

10月19日(日)「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」

場所:JAおきなわジュビランス(宜野湾市在)

研究発表

- ①石垣新川川における多自然型川づくり設計
新垣昭宏(沖縄県八重山支庁土木建築課)
- ②羽地大川における多自然型川づくりの評価について
高里昭宏(沖縄県北部土木事務所)
- 講演:多自然型川づくりについて
島谷幸宏(国交省九州地方整備局武雄河川事務所)
- 循環型農業の事例報告(キューバスウェーデン)
寺田麗子(沖縄玉水ネットワーク副代表)



初回の「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」を開催。
 広い会場に聴衆が詰めかけ関心の高さを示した

自然再生事業というのは何か。これは去年から始まったのですが、人間の営みによって影響を受けた自然環境を取り戻すための環境保全を主目的とした公共事業ということで、今、多自然型川づくりというのは、治水事業をやるときにあわせて環境もやりましょうということですけど、これは環境保全が主目的の公共事業と。これも根本的に違います。やりながら手法を確立する。これは順応的な手法。対話型の公共事業という、この3つがポイントです。

(中略)それで、みんなでつくりあげていくというのを基本にしていまして、ポイントは「してくれ」ではなくて、「しよう」が基本ということで、どうして国土交通省はこうしないんだという意見が出たら、聞かないです。だめだめ、そんなのだめ。「してくれ」ではなくて、「しよう」が基本ということですね。

島谷幸宏氏講演より

(キューバの循環農業報告を終えて)現世代の私達は、地球の気候変動を加速させるまでに様々な自然破壊を行ってきました。将来民族(次世代)への責任として、自分達の地元から対策を考えなければ子供達が危ない状況になると思う。近い内に予想される食料危機は真剣に取り組まなければならない、そのための先進事例としてキューバの有機農法があり、沖縄で最も有効な生き残り策になると考えている。全ての資源を地域で循環させ、自立を目指していくことが大切だと思う。

寺田麗子氏講演より

沖縄の川は小規模で、島嶼という宿命を負っている。プランナーや準備の方々がよほど注意をしないと、力任せの整備であつという間に完成してしまう。そういう危険性があるので、このような場所で情報交換をすることが極めて重要ではないかと思っています。

山口修次長閉会挨拶



情報発信

「市民と行政の真のパートナーシップ実現にむけて」～沖縄玉水ネットワークの取り組み～
 新城晴伸(沖縄総合事務局開発建設部河川課調査係長)

第1章 沖縄玉水ネットワーク 5年の歩み

平成16年度

8月10日(火) 年次総会

場所:北谷町役場

議事内容

1. あいさつ、自己紹介
2. 玉水ネットワークの運営について
 - 役員及び事務局について
 - 新規団体参加について
3. 平成15年度活動報告
 - 活動の全体総括(沖総局河川課)
 - 市街地における水辺空間再生調査(川の歴史記録活動調査)
比謝川:比謝川をそ生させる会、YOU・遊・比謝川実行委員会
天願川:具志川市水と緑を考える会
報得川:報得川と美海の会
4. 今後の活動内容について
 - 北部河川現地調査及び各団体活動報告会
 - 多自然型川づくり講演会の開催
 - 川の歴史記録活動調査
5. その他情報提供等
 - やんばる河川・海岸自然再生協議会について(沖総局河川課)
 - 「子どもの水辺」九州ブロック会議参加報告(沖縄県及び沖総局流域調整室)
 - 社会資本整備重点計画について(沖総局河川課)
 - 沖縄玉水ネットワーク新聞の発行
 - 多自然型川づくり協議会への参画



総会では、今後の新たな活動について活発な意見が
交わされた

市民団体と沖縄総合事務局・沖縄県が参加し、情報の交換や発信を行いながら沖縄の川の美化に取り組む「沖縄玉水ネットワーク」が発足し2年が経過した。活動3年目を迎えるにあたり、北部河川現地調査及び各団体活動報告会を開催に向けて動き出すなど、新たな活動の広がりが感じられる年次総会となった。

議事では、沖縄玉水ネットワークについて、以下の3点が決定された。

- ①代表、副代表、ネットワーク事務局は留任。
- ②新規参加団体として、石川川を甦生させる会及び(社)沖縄建設弘済会を承認。
- ③特に会則については変更しない。(新規団体参加の手法等が明記されていない)

また、今後の活動内容について、

- ①北部河川現地調査及び各団体活動報告会を実施。(9月の土日を予定。)
- ②多自然型川づくり講演会の開催をする。
- ③川の歴史記録活動
- ④沖縄玉水ネットワーク新聞の創刊する方向で考える。
- ⑤多自然型川づくり協議会への参画は、継続する。

などの主な確認事項や、具体的な計画案が話し合われネットワークとして積極的に推進していくことを確認した。さらに、やんばる河川・海岸自然再生協議会へ沖縄玉水ネットとして団体登録する件に関し、質疑があった。

◆やんばる河川・海岸自然再生協議会へ沖縄玉水ネットワークとして団体登録する。

Q.源河川において、現在、河川測量及び設計を行っているようであるが、どのような整備(多自然型川づくり?)となるのか?
(源河川:親川会長)

A.現在進めているのは、災害関連事業となるため原形復旧を予定している。

ただし、将来的には自然再生事業を目指した河川整備をしたい。(県河川課比嘉課長)

Q.一部団体での取り組みで構わないが、畜産排水対策の勉強会も開催を希望する。(長堂川:神里会長)

A.懸案事項とし、今後調整する。(寺田副代表)

Q.漫湖のマングローブ増殖により陸地化、水鳥の減少、マングースの増加が見られ、間引きする必要があると考えているが? (国場川:玉城会長)

A.漫湖はラムサール条約登録湿地であり、河川管理者といえどもむやみに伐採することは出来ない。よって、治水上支障がある箇所のみ伐採しているのが現状である。また、県環境部局を主体とした漫湖協議会において現在マングローブ増殖による様々な影響について科学的に分析検討を行っていると聞いている。(県河川課)

A.マングローブによる陸地化は、流域内の開発等による土砂流出が主要因であり、断片で判断するのではなく科学的見地から考えるべきである。(報得川:崎山氏)

◆今後の活動として、循環型社会(屎尿・建設廃材等)の構築を目指した勉強会が必要であると考えている。
 (白比川:仲地氏)

10月16日(土) 「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」

場所:浦添市民会館

研究発表

①多自然型川づくり「内川」の設計について」

渡真利尚樹(沖縄県南部土木事務所)

②小波津川における住民合意の創意工夫について

嶺井直樹(沖縄県中部土木事務所)

■講演

①「生命を育む水環境を～多自然型川づくりにできること～」

福留脩文(株西日本科学技術研究所長)

②「宇栄原小学校の環境学習」

横山芳春(那覇市立宇栄原小学校長)



2年目の研究発表及び講演会では、水環境と川づくりについて様々な問題が提起された

まずは、住民と一緒にその地域の自然なり街なりを良くしていく。こういった活動をしなが、その成果を持って行政のほうに行くということになると、行政はもう逃げられないです。これは逃げられないです。

企業の営業活動だけで行くと、営業で来たんですねというのが、行政の人間は頭の中にすぐひらめきますので、話は聞かないです。例えば、15分ぐらい話してもほとんど聞いてないです。そうではなくて、市民・住民の人たちと一緒にまちづくりなり環境活動なりをやった上で、市民の人と一緒にいくとか。そういうことをすると、もう行政は逃げられない。まじめに対応しなければいけないということになりますので。

非常に大切なのは、企業市民として地域をよくする活動をする。その上で仕事をしていくということが、これから企業の皆さんに求められていること。そして、企業が発展する方法ではないかなと考えております。 横山芳春氏講演より

情報発信

『市街地における水辺空間再生調査』報告書発行、平成17年3月『おきなわの川のはなし』、
 沖縄玉水ネットワーク新聞『たまみじ』発行

第1章

沖縄玉水ネットワーク
5年の歩み

平成17年度

8月24日(水) 年次総会

場所:北谷町役場

議事内容

1. あいさつ、自己紹介
2. 沖縄玉水ネットワークの運営について
 - 役員及び事務局について
3. 平成16年度活動報告
 - 活動の全体総括
 - 沖縄玉水ネットワーク新聞「たまみじ」の発行
 - 川の参考書「おきなわの川のはなし」の作成
 - 小波津川川づくり協議会への参加
4. 平成17年度の活動内容について
 - 多自然型川づくり講演会の開催(10月)
 - 川の歴史記録活動調査
 - 沖縄玉水ネットワーク新聞の発行
5. その他情報提供等



「沖縄玉水ネットワーク」が発足し3年が経過した。今回の総会ではネットワークの運営や役員および事務局について、見直しを含め話し合われた。

議事では、活動の全体総括が行われ

- ① 沖縄玉水ネットワーク新聞「たまみじ」の発行
- ② 川の参考書「沖縄の川のはなし」の作成
- ③ 小波津川川づくり協議会への参加

などについて報告された。

また、平成17年度の活動内容については

- ① 多自然型川づくり講演会の開催(10月)
- ② 川の歴史記録活動調査
- ③ 沖縄玉水ネットワーク新聞「たまみじ」の発行

などについて話し合われた。



10月22日(土)「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」

場所:沖縄市民会館



研究発表

- ①「奥川支川チヌフク川 リュウキュウアユを呼び戻すために」
小波津英慎(沖縄県北部土木事務所)
- ②「饒波川の計画における住民参加の創意工夫について」
又吉一誠(沖縄県南部土木事務所)
- ③「北部ダム事務所における環境保全対策について」
杉田泰俊(沖縄総合事務局北部ダム事務所)

■講演

近自然への挑戦

木戸規詞(豊田市都市整備部まちづくり担当専門監)



「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」の様子
(沖縄市民会館)

「土木というものは、本来人民に幸福を与えるためのものである。土木は他の学問と違って、国家とか行政あるいは社会の中心に座ってしまうので、技術を追求するのみでは現実的に生きてこない。土木は、社会という人間の体のような組織の中心にあるものだから、環境の問題を考えないと成立しない学問である。人間と同じ生命体である社会の中の外科的手術を施すものだから、土木をやる人は社会科学だとか、文学的デリカシーのある教養の塊のような人でなければならない。そうでないと、社会の味方だったこの学問が、社会の敵となるような、非常にきわどい時代に差ししかかっている」これを平成6年に司馬遼太郎先生が言いました。

近自然工法の目的は、社会を健全にするということです。みんなで管理すると、そこにコミュニティーができて、子どもたちも含めて社会教育ができる。それが、これからの成熟社会に絶対に必要なキーワードなんです。

木戸規詞氏講演より



参加を呼びかける案内チラシ
(平成17年度)

12月4日(日)水辺の散乱ゴミ指標評価(天願川)を実施

天願川デー(12月4日)の清掃に合わせてゴミの量調査を実施した。



山形県の河川国道事務所やNPO法人が協働で始動した、河川美化活動の「物差し」(新たな水環境指標)となる手法を開発しようという呼びかけに応じ、沖縄玉水ネットワークでは12月4日(日)うるま市の天願川下流で散乱ゴミの指標調査を実施した。

当日は、天願川デーの清掃日でもあり多くのボランティアが実際にゴミを回収しながら、その量に基づいてランク判定を行った。全国で集められた調査結果を基に散乱ゴミの提言化への活用が期待されている。

12月11日(日)【矢作川方式による濁水対策の実演と展示】

場所:中城湾港自由貿易地域

樹木廃棄物の再利用し濁水対策に活かそうと12月11日(日)、中城湾港自由貿易地域の特設会場において実演と試験施工が行われた。当日は沖縄玉水ネットワークの構成団体をはじめ行政関係者・建設関係者が興味深く見守るなか、樹木廃棄物を再利用した多くの実演が披露された。ネットの中に樹木廃棄物チップを詰め込んだフィルトレックスと呼ばれるフィルターに濁水がとおると、赤褐色の濁水が透明に近い色に変化して流れ出るなど濁水対策の効果の高さを示していた。その他、バークブロー工法やエコ法枠の実演も実施された。



ネットを利用した濁水対策の実演を見守る参加者

第1章 沖縄玉水ネットワーク 5年の歩み

平成18年度

9月19日(火) 年次総会

場所:うるま市石川地域活性化センター(舞天館)

議事内容

1. あいさつ、自己紹介
2. 沖縄玉水ネットワークの運営について
3. 平成17年度活動報告
 - 多自然型川づくり講演会の開催
 - 川の歴史記録活動調査
 - 沖縄玉水ネットワーク新聞「たまみじ」の発行などについて報告された。
4. 平成18年度の活動内容については
 - 多自然型川づくり講演会の開催(11月)
 - 川の歴史記録活動調査
 - 散乱ごみ調査などについて
5. その他情報提供等



4年目を迎えた沖縄玉水ネットワーク年次総会

「沖縄玉水ネットワーク」が発足し4年を迎えた。今回の総会では事務局会議の設立や各団体からの活動報告、さらに宜野湾で発生した水難事故について、意見交換が行われた。

議事では、活動の全体総括が行われ

●事務局会議(仮称)について

事務局会議を設立することは了承、詳細は次回の総会で検討する。

当面は現在の委員等で会を執行する。

●各団体からの報告内容

各団体ともに高齢化が進んでいる。若者の参加が必要。

安謝川:月1回清掃活動を実施。

石川川:月1回活動を実施 河川を子供の遊べる、学習の場として活用している。河川沿いに350本の桜を植栽。

国場川:定期的に河川のゴミ拾いを行っているがイタチゴッコ、河川だけではゴミの拾える場所も限定されるので陸上での対策を検討。

報得川:水質調査を行っているが、良い悪いの繰り返しである。養豚場が増えた事も原因ではないかと思う。今後、JA糸満と活動を行っていききたい。

うるま市:地域の環境グループとのつながりが必要。協力して活動する。

●宜野湾の水難事故について

崎 山:川は危険なものと認識、誤解されては困る。もっと身近に感じさせる事が重要、川の安全性、親しみについて考える会を設置してはどうか。自分達の住んでいる空間を捉えたシンポジウムをおこなってはどうか。

松 本:川の安全性について勉強会を開催する事も必要。

安謝川:ゴミ拾いからきっかけになって多くの人と川について共通の認識を持つ事ができればと思っている。川に接する機会を増やす事が必要。

高 平:天願川でも過去に事故があったが子供に危険な箇所を教える事が必要。学校教育の中で行う事も必要。

松 本:河川周辺の整備に伴い鉄砲水が増えている。

安謝川:鉄砲水対策として雨水タンクの設置も必要ではないか。

11月3日(金)「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」

場所:カルチャーリゾートフェストーネ

研究発表

- ①大保川における多自然川づくりについて
小波津英慎(沖縄県北部土木事務所)
- ②河湖林における近自然工法の河道整備(宮良川)
瀬長雄二(沖縄県八重山支庁土木建築課)

講演会

北海道における近自然工法の現場紹介
 漆原修氏((株)北都エンジニアリング代表取締役)

講演内容

北海道の河川改修や大雪山国立公園内の登山道整備において「近自然工法」による計画・設計を実施し、現在も研究を継続している。北海道における近自然工法、「真駒内川分散型落差工」及び「大雪山国立公園内における登山道整備」の2事業について、現場紹介と地域住民参加の川づくりの必要性等について講演いただいた。



参加を呼びかける案内チラシ
 (平成18年度)

結果

事前に案内チラシの配布や関係者への呼びかけを行い、当日は約100名の参加者があり会場は大いに賑わった。研究発表会では、現在行政が取り組んでいる川づくりの必要性・困難性等を含めた実情が、玉水ネットワークのメンバーをはじめ会場の多くの参加者に紹介できた。

また、講演会では、北海道における近自然工法の仕組みと現状が理解でき、行政のみならず地域住民も参加した川づくりの必要性について学習することができ、今後の沖縄の川づくりにも大変参考になり、極めて有意義な講演会となった。

登山道で近自然工法を実践すると同時に、先ほども言いましたように、登山道整備をする地元の技術者を養成するというのも、これは近自然工法の1つの理念として考えております。

これは、福留脩文さん(近自然工法のパイオニア)が作成したものです。屋久島でやられました登山道の施工要領、仕様書の中からちょっと書かせていただきました。近自然登山工法の考え方ですね。

1「現場に使う材料は外から持ち込まない」。施工する場所の約15m以内で調達すると。

2「人工構造物の構造は自然界の構造から学ぶ」。自然をよく見るということですね。

3「現場での各種作業は道具をはじめ、工法まで基本的に伝統技術を用いる」。これは石工の本物の道具を用いるということで、大雪では高知から本当の石工の伝統的な道具を買い求めて施工しております。今この石工のいろいろな道具があるのですが、これは高知と京都でしかつくられてないという話をお聞きしています。私の会社も、石工道具を求めて現場で使っております。それから

4「必要以上の人工的・造形的な作業を慎む」。いらないデザインをしないということですね。

5「現場による石や樹木、自然のものにできる限り傷をつけない」。それから

6「造成から維持管理までの技術を後世に向け地元に残していく」。ということですね。

漆原修氏講演より



講演中の漆原修氏

第1章

沖縄玉水ネットワーク
5年の歩み

平成19年度

8月22日(水)第1回事務局会議

沖縄建設弘済会会議室

議事内容

1. 日 時:平成19年8月22日(水) 15:00～
2. 場 所:(社)沖縄建設弘済会4F会議室
- 3.参加者:【会員】松本代表、高平副代表、寺田副代表、崎山
【行政】沖総局:安仁屋、安次嶺、知名沖縄県:津嘉山、辺土名 【事務局】森
4. 内 容:以下のとおり

1.ホームページリニューアルの件

- 既存HPのリニューアルについて総会に諮ることが了承された。
- HPは玉水ネットワークのトップページに各団体の活動等を掲載または、各団体が運営するHPにリンクを貼るイメージとし、掲載したい情報(文書・写真等)を提供すれば事務局でアップするシステムとする。
- 10月頃よりリニューアルに着手し、12月頃に完了させる予定。

2.5年間のあゆみについて

- H19単発事業として、玉水ネットワークの足跡や座談会内容等を掲載した「玉水ネットワーク5年間のあゆみ」の編集について総会に諮ることが了承された。(助成金対応)
- 「5年間のあゆみ」はリニューアルされたHPにも掲載する。
- 作成時期はHP作成スケジュールと足並みを揃える。

3.川の学校について

- H19単発事業として、「川の学校」の開催について総会に諮ることが了承された。
- 教材として過年度作成した「川のはなし」を活用
- レク保険を付保する。
- 9/8(土)に報得川でイベント(30～45人規模)があるので、それと併せて開催できるよう、沖総局河川課と崎山さんと調整を行う。

4.現地見学会について

- 継続事業として現地見学会の開催について総会に諮ることが了承された。
- 基本的に年1回各団体持ち回り制とし、総会時に立候補を募る。
- 11月頃開催予定

5.座談会について

9月8日 報得川水質調査

報得川の水質汚濁の実態を知るために主要の支流の合流点付近の水質を測定し、汚濁物質の流入経路を明らかにすることを目的に51名が調査に参加した。以前の調査データと比較するときれいになっており、与座ガー・嘉手志ガーの湧水はきれいな水質を保ち、報得川にとって大事な水源。上流、中流、下流または支流間に大きな汚濁の差はなく、全般的に汚濁しており、要因は生活排水と畜舎排水と思われる。川や川べりにごみの不法投棄が目立つ、などの感想が参加者から寄せられた。



10月5日(水) 年次総会

場所:カルチャーリゾートフェストーネ

議事内容

- 1.開会
- 2.会長あいさつ・自己紹介
- 3.役員の互選
4. 議事
 - ① 平成18年度活動報告 ② 平成18年度各団体の活動報告
 - ③ 平成19年度活動内容について ④ 現地見学会の開催について
- 5.その他
 - 河川愛護会助成金交付事業について
6. 閉会



1. 平成18年度活動報告年次総会、多自然型川づくり研究発表会及び講演会、活動経費、河川整備基金助成事業実績報告
2. 平成18年度各団体の活動報告
 - 参加団体活動報告
(源河川にアユを呼び戻す会・You・遊・比謝川・報得川と美海の会・安謝川をきれいにする住民の会・長堂川に清流を取り戻し山川の生活環境をよくする会・国場川に清流を取り戻す会・いひちゃ〜川を蘇生させる会・沖縄テレビ)
3. 平成19年度活動内容について
 - 「玉水ネットワーク5年間のあゆみ」の編集
 - 5年間の歩みを振り返り、座談会を開催
 - ホームページのリニューアルと充実
 - 河川愛護活動における教材・機材等の提供
 - 現地見学会、意見交換会、行政への提言、要望
 - 必要に応じて「川づくり講演会」等を開催
 - ホームページの内容更新、その他
- 4.河川愛護会助成金交付事業について
河川愛護会助成金交付事業が平成19年度から始まる。制度創設の背景、支援する内容、支援の要件、手続き等についての説明が行われた。
- 5.今後の予定
 - 2月27日(水)現地見学会開催
 - 現地見学会(13:00～15:00):長堂川
 - 座談会(15:00～17:00):山川集落センター
 - 2月 平成19年度決算報告書(中間)及び活動内容報告者(中間)
 - 3月 『沖縄玉水ネットワーク5年のあゆみ』完成
ホームページリニューアル完成

第2章

沖縄玉水ネットワーク
長堂川見学会

かつて水遊びやサバニが那覇との間を往来した長堂川。

南風原町津嘉山の地域住民と沖縄県との協働で道路を川にふれあう場として平成19年5月「川下原舟入り通り」として蘇らせた。沖縄玉水ネットワークは5周年記念座談会の前に長堂川の見学会を実施した。

長堂川見学を終えて



■長堂川視察に関する感想・質疑

照屋:今日、長堂川を見せていただいて、天願川も汚れがひどいのがこもひどいと思いました。ゴミがかなりありました。長堂川では清掃はされていますか。天願川の清掃は、全体で年1回、集落では毎月行なっています。これは戦前から行なっています。農業で必要な川岸のアシを守るためです。

神里:定期的には4月と10月に実施しています。各所帯から1人参加することになっていて、毎回80~90人が参加しています。これ以外に、8月の河川月間のクリーンアップ作戦で、小学生と大人がボランティアで参加します。参加しないと罰金を徴収しています。以前は1日5,000円、今は半日なので2,500円です。用事でこれない人もおられるので、今度から年4回行なうことにしています。4回のうち、2回参加すればよいということにしています。罰金が目的ではなく全員参加が目的なので、で



きるだけ罰金を取らないようにするためです。

寺田:上流側で、途中から川に石を並べているのは町の工事によるものと聞きました。下流側ではけっこう土砂が

たまっているところがありましたが、その土砂撤去はしているのでしょうか。

神里:土砂撤去は町の方でやっております。国場川と長堂川を交互にやっています。山川橋から上は町の管理の準用河川です。

高平:上流側で、せっかく石を積んでいるのですが、直線になっています。流れに沿ってできたらと思いました。次の改修の時は、ぜひ住民から声をあげていただいてはどうでしょう。

仲地:実際に河川水質検査を見せてもらって、よかったです。地域住民は、歩いて見ているだけでは汚れているかどうかはわからないものです。今日のように、啓蒙活動として一緒に歩いてやったことがあるでしょうか。

また、上流とのタイアップが難しいと思います。上流側にゴミがありました。それらはほとんど上流から流れて来るとありますが、上流とのタイアップはどうなっていますか？

また、せっかく植えられたサクラで、何本か枯れているのがありました。農薬や除草剤のせいという話でした。一部の人だけで河川をきれいにするというのは難しいものです。部落全員の認識が必要だと思いますが、他部落



と連携はしていますか。

神里:他地域も巻き込んで行なうのは、年1回、8月のクリーンアップ作戦の時だけです。もともと南風原町とタイアップして、子供から大人まで一昨年まで山川でやっていました。ある地域から「なんで山川だけ？」といわれ、自分のところでもやりたいというので宮城でも行なったのですが、人が集まらなかったようです。今年も行なう予定です。

サクラが枯れたのは、農家が畑に除草剤を散布した



ものが飛んだことも考えられます。親切心で、サクラ周辺の草を枯らすためにまいたというもあります。除草剤は使わないようにお願いをしています。

寺田:昔の話ですが、河川シリーズで最初にここを取材した時、集落に入った時点からものすごく臭かったものです。畜舎の臭いが集落の入口からたちこめていました。川に近付くにつれ、ひどい原液のにおいがしました。また豚糞により石を投げても沈まない。上にボンと叩いて、ズブズブと沈みます。川沿いの家はみんな窓を閉め切っていました。洗濯物も外に干すと臭いがついたようで、学校で「あれは山川の子」と言われたといいます。

会の発足から取材してきて、山川は住民の結束力が強いと感じます。川を守ろうと立ち上がり、みんなで決めたことはみんなで動いて、実行する力が強い。急激に水質がよくなっているのも、住民の結束力が強い



からだと思います。

畜舎の経営者と対立関係になるとこじれますが、山川では経営者を会員に巻き込んでシンポジウムをやる

など、地道な活動をずっとされてきました。うまいぐあいに連携されて、いい方向に進んでいるのは敬服しています。

神里:いまだから笑い話ですが、どこの家でもお客がきたら「臭くない?」があいさつでした。自分の家からにおいがすると思われたくないからです。

寺田:今はさわやかでいいですね。



新城:南部保健所の生活環境の班長をしています。きょう初めて見学しました。川岸でマルチングのビニールがかなり燃えたあとがありました。私のところでも1か所集中して燃やす場所が見つっていますが、あんなにひどいことはないです。廃棄物として出している人がいるのでしょうか。もしわかったら、南風原町と連携して指導していきますが…

神里:農業用ビニールは、農協が有料で回収しています。以前はあちこちで燃やしていました。毎年1月の区民の会で、区長が燃やすなといっています。最近ほとんど見たことがないです。川に流れてきているものもありましたが、ちょうどカボチャでビニールをはずす時期に来ていて、置いているのが風に飛ばされているのではないのでしょうか。

第2章

沖縄玉水ネットワーク 創設5周年記念座談会

創立から5年の活動を振り返って

玉水ネットワーク座談会

■日時:平成20年2月27日、15:00～17:30

■場所:南風原町・山川集落センター

参加者:

神山 満夫	比謝川をそ生させる会
寺田 麗子	久茂地川フェスティバル実行委員会
照屋 勇	うるま市水と緑を考える会
崎山 正美	報得川と美ら海の会
新城 安哲	報得川ワイワイ会
仲地 清志	白比川の自然を残す会
神里 博明	長堂川に清流をとりもどし生活環境をよくする会
神里 良光	
玉城 孝治	国場川に清流をとり戻す会
仲地 政秀	
渡久地博之	いひちやー川を蘇生させる会
古川 貴裕	沖縄テレビ報道部
津嘉山 司	沖縄県河川課
高良 敏夫	
椎葉 秀作	
安仁屋 勉	沖縄総合事務局
与那覇 忍	
森 繁司	沖縄玉水ネットワーク事務局 (沖縄建設弘済会)



開会

開会宣言:森(事務局)

現地見学会の意見交換会から引き続いて、沖縄玉水ネットワーク座談会に移りたいと思います。平成14年の沖縄玉水ネットワークの立ち上げから5年が

経ちました。振り返ってみて各団体でこういう印象に残る取り組みを行なったとか、またネットワークができたことでどうだったか、さらには行政との関係はどうなったかなどを話し合っていたいただくのが本会の主旨です。また今後の理想的な川のあり方、期待するもの、こういうことをやりたいなど話して頂ければと思います。まずは松本代表からごあいさつをいただきたいと思います。

あいさつ



松本代表

(報得川と美ら海の会)

今日は、3つの視点で見ました。1つめは、水の濁りです。日本一汚れた川とされる、うちの報得川とそうかわらないと思いました。そうとう汚れがあったのがきれいになったといいますが、大分にごりがありました。2つめは、周辺の地形です。どう流れこんでいるのかとか、戦前の汽車がどこを通っていたかなどですね。乗ったこともありますので、憶えています。戦前の景色とくらべると、山は同じだけど平地は大分変わっています。3つめは、水の量です。かなり多くなり、急激に入ってきているのではないのでしょうか。満潮の時は、那覇港の水がどのあたりまで来るのでしょうか。100年前には、ここで作ったものを船で那覇まで運んだといいますが、だいぶん海の水が来ていたのではないかと思います。

玉水ネットワークは、平成14年に発足して、これまで5年かけて様々な催しをやってきましたが、みなさんの意見を参考に今後の活動の糧にしたいと考えています。



自己紹介

寺田(久茂地川フェスティバル実行委員会・玉水ネットワーク副会長)

4年前までOTVに

いて河川シリーズ担当をしていました。後輩の古川君が引き継ぐので、ぜひ活用してください。



高平 (うるま市水と緑
 を考える会・玉水ネット
 ワーク副会長)

OCNケーブルテレビで、ケーシー高平として川の水を飲みまわっています。今日はさすがに飲めませんでした。

和宇慶 (比謝川を
 そ生させる会)

会長、副会長が用事で来られず、私が来ました。会が高齢化しているので、早く若い人たちが入ってきて発展することを今年のテーマにしています。



照屋 (うるま市水と緑
 を考える会)

県の河川課の人が愛護協会を結成すれば5万円を支給するというので、早速翌月に地域で河川

愛護会と天願いき会を作り、毎月1回活動しています。

新城 (報得川ワイワイ会)

川の問題は素人でした。2年前に南部保健所に転勤してきた途端、環境省による平成17年度の全国水質ワースト1になってしまいました。崎山さんに電話して、会を作っ



て川を良くしていこうと話し、1年になります。今月の集まりで、糸満単体ではなく上流の南城市、八重瀬町の人たちも一緒になって全市町で動こうとなりました。活動はこれからです。



仲地 (白比川の自然を
 残す会)

現在は、活動休止状態です。3月で行政職を定年になるので、時間ができたら活動できると思っています。河川活動は忍耐がいるうえ、うちも

高齢化しています。会長、先代と3代目が亡くなり、組織のバトンタッチをやっているとしています。中部土木事務所と流域の沖縄市・北中城村の企画、環境関係、下水道からメンバーを3人入れて、会議を持っています。河川改修の用地売却も終わり、来年あたりから工事にはいるので、自分たちの思いを反映させるよう活動しています。来年は河口にマングローブを植えられないかという話もすすめています。東京に生き物と呼ぶ公園を作ろうという話がありました。人間も生き物。今回の河川を見ても、夢を含んでいると感じました。サクラだけではなく、いろんな花が植えられていると、人も生き物も寄ってきて豊かになります。夢を持って活動できれば、お互いが楽しい。そういう気持ちで観察に参加しました。



玉城 (国場川に清流を
 とり戻す会)

毎年、会のメンバーを含めて国場川こいのぼりまつりをやっています。昨年まで11回行ないました。今年も5月に行ないます。川の話の中で、先の沖縄戦

でたくさんの方が犠牲になり、国場川に浮いていたという話を伺いました。戦後、よく国場川で泳いで、

第2章

沖縄玉水ネットワーク
創設5周年記念座談会

創立から5年の活動を振り返って

頭蓋骨を拾ったことがあります。それを地域の納骨堂を作って安置したものです。まとめて識名の納骨堂に安置しています。まだたくさんの遺体が川床に寝ていると思います。早く拾ってあげて、供養してほしい。行政の方もいるので、是非お願いしたいです。大戦で艦砲弾が打ち込まれましたが、畑に打ち込まれたものは不発弾が多く、農家は処理するところがわからず国場川にたくさん捨てたといいます。何十年たっても爆発力は変わらないということです。川の浚渫のときはお骨を拾ってほしいことに加えて、金属探知機等を使って注意して作業してほしいと思います。



仲地(国場川に清流をとり戻す会)

新国場川橋のすぐとなりの埋め立て地の公園で、下流に50m、上流に400mにわたってこいのぼり祭を行なっています。その際、両岸をきれいにし

ています。上流側の南風原町とのワークショップにも参加しています。上流からきれいにしなくては、との認識で行動しています。こいのぼり祭は今年で12回目ですが、この行事をきっかけに企業の方が会社周辺の草を刈ったりするという小さい輪ができつつあります。県の予算は厳しいというので、成人式の前に自分たちで土手の方の草を刈りました。そういった啓蒙活動をしています。学校に行く機会も多いので、学校でも河川について啓蒙しています。まだまだ河川や河川の美化に関する認識が足りないと感じています。クリーンアップ作戦も中学校の部活動の生徒を使い、こ



いのぼり祭の前に草刈りやり取りをしています。今日は、いろいろなアイデアをいただきたいと思っています。

神里(長堂川に清流をとりもどし、山川の生活環境をよくする会)

長堂川の会、山川の生活環境をよくする会の3代目会長です。生活排水を止める方向で、清流を取り戻すまでがんばっています。



古川(OTVアナウンサー)

仲地が退任し、自分と川平の2人で一から始めています。改めて都市河川を見直そうとがんばっています。OTVとしても、一から

やっていますので、とことん活用してください。行政との間を報道がまとめていくこともあると思います。住民の人たちが自分のことのように感じてもらえれば、輪が広がります。激励より叱咤してください。

津嘉山(沖縄県河川課)

玉水ネットで県庁側の窓口をやっています。河川課で改修の企画など担当してい



ます。

高良(沖縄県河川課)

河川課の班長をやっています。8月の連絡協議会から、現在32団体が活動しています。各地で河川清掃をされていることに感謝しています。報告書を出して頂ければ、助成金を支給致します。



与那覇(沖縄総合事務局)

玉水ネットワークができた翌年から、3年間担当していました。現在は流域調整課に配属されています。県を叱咤激励しながら、多自然



型川づくりに取り組んでいます。

安仁屋(沖縄総合事務局)

昨年4月から河川課で仕



事をしています。そこから玉水ネットワークに加わりました。みんなで現地会や座談会、ネットワーク強化を行なっていきたいと考えています。



椎葉(沖縄総合事務局)

沖縄総合事務局の河川課長をしております。補助事業では、砂防事業の担当をしています。沖縄には、国が管理する河川がありません。

着任当初は県と市町村の管理なのに、河川課長がなぜいるのかと思っていました。玉水ネットワーク発足から5年が経ち、河川行政も状況が変わり、社会資本整備重点計画を見直す時期に来ています。5年、10年のスパンでどういう風に整備していくのかの節目です。10年前に発足された沖縄の河川づくりのビジョンも見直しの時期に来ています。沖縄の山、川、海を育てる懇話会を県と立ち上げて、広い意味での河川行政を進めています。その関係で現在、山川集落に世話になっています。懇話会では、海も含む流域という広い概念で取りくんでいこうとしているところです。

嘉数(国場川に清流を取り戻す会)

国場川に清流を取り戻す会も10年目になり、地域の人たちが川に目を向けることが多くなりました。



長堂川下流は国場川に注いでいますが、大雨になるといつも増水しています。以前は豚なども流れてきましたが最近は、流れてきません。逆に、下流の方からプラスチックゴミやマングローブの球根が流れてきて、翔南製糖のあたりで留まっています。芽を出して密林になるといけないので、スコップで取っています。シマシラキが2〜3本あり、それは取らないで残しています。道路は路面清掃車が定期的に清掃してい

るように、川にもそういうのがあればと思っています。
崎山(報得川と美ら海の会)

私は「報得川ワイワイ会」にも入っています。川への関わりは、30代のころに寺田さんに出会って、久茂地川運動を10年間



行なったのが最初です。それなりの様々なイベントなどを終えて、安心していましたら、県のある部長から電話があり、「一緒にやろう」と言われました。それで糸満に戻ったら報得川の運動が始まり、それがだんだん尻すぼみになったので解放されると思ったら、今度は保健所の人から電話がかかってきて「ワイワイ会」をやろうと言われました。結局、私の人生の大半は川のように流されてきました。当初は住民と行政の間でいろんな乖離や摩擦がありましたが、河川行政と住民の関係はよくなってきたように思います。その中で畜産関係者、行政、環境系分野、教育系との橋渡しがまだまだです。しかし、この5年で河川の方はネットワークがかなり広がったのは成果だといえます。

森:自己紹介ありがとうございました。ここから座談会に入っていきたいと思います。それでは、玉水ネットワーク発足以来、ずっと関わってこられた寺田さんに進行をお渡しします。

寺田:沖縄玉水ネットワークも5年になります。あっというまでした。これまでいろいろな活動をしてきましたが、事務局がまとめてくれているようですので、これまでの活動を振り返ってみたいと思います。



第2章

沖縄玉水ネットワーク
創設5周年記念座談会

創立から5年の活動を振り返って

沖縄玉水ネットワーク設立による
団体への影響等について

●もっと子供たちを川で遊ばせることを考えたい

寺田:振り返ってみると、たくさんのことをやってきました。副読本や報告書、それに川づくりの勉強会など、5年間でだいぶ積み重なってきたと感じます。まずは、玉水ネットワークができたことで、よかった点、進歩したこと、影響などを伺っていききたいと思います。



松本:5年が経過して、各地域との交流が深まり、活発になりました。南部、中部、北部の人たちとも交流できました。山のある地域と平地の多い地域では、川づくりでも考える必要があると思います。中南部ならもっと木を植える必要があるというように。川づくりについて、国や県の河川課にはナマの声や要望をもっと聞いていただきたいです。年配者の意見を聞くと、昔の川に戻してほしいとの声が多いですね。川を汚すのもよくするのも人間次第です。

ある看板に、「危険」と大きく書いてありました。これでは人は来ません。危ないというのではなく、もっと川で遊ばせることを考えてもらいたいです。もっと親子で遊びに来なさいというようなものを書いた方がよいのではないのでしょうか。幼稚園や保育所、学校で「木に登るな」というと、子供たちは登りません。しかし、小さいころから体験させないと大人になっても登れないのです。小さい時から自然と体で覚えるような環境が必要です。なので親と一緒に川に来てもらいたいです。また、山川橋から上流まで魚が観察できます。去

年から、ホタルも生息しています。ホタルがいるということは、きれいな川だということです。これからの季節は、天気の良い日にはスポンが甲羅干ししています。

千葉の春木川は、日本で一番「悪い川」に指定されました。全く生物がいないのです。そんなドブ川だったのをきれいにしたことで、NHKが特集しました。それで報得川にも取材に来ましたが、報得川には生物がいっぱいいます。魚も野鳥もいます。これで日本一汚いと言うのでしょうか。NHKは30分ほど撮影していましたが、テレビでは全く放送されませんでした。汚れている川というのはこんなものではないと思ったのでしょうか。川は小さい子から親まで、もっと楽しめる川にならないとだめです。まずは川づくりです。

高平:他の愛護団体とのネットワークがなかったので、玉水ネットワークはぜひ作ってほしいと思っていました。沖縄総合事務局が取り持ってくれたことは、喜ばしいことです。それにより他の河川の多くの情報を仕入れることができました。それを自分たちの会に活用できたかという、内部の問題もありますが、まだ私が考えているほどにはなっていません。ただ、会ができ交流できたことで、他の環境活動をやっているグループを見て提案できるようになりました。たとえばEMを浄化して流しているグループに「効果があるのか」と言ってみたとこ、考え直してみようという話になりました。これもネットワークでできたことです。情報交流は重要なことである、と総括できます。

条例や規制と活動との兼合い、
行政との連携について

●植樹は推進。ただし河川区域内では許可が必要

照屋: じかに生身の声が聞ける、また言えることは大変素晴らしいと思います。今日、川を観察させていただいて、畜舎排水の問題点に関心を持ちました。これまで天願川の川づくりでいろいろな取り組みをしてきて、4回ワークショップを行ないました。上流をどうするかということで、行政と住民がキャッチボールをすることができました。天願橋の下の方でも同様にワークショップを行いました。社会資本整備の見直しという話が出ましたが、じかに話をできることは素晴らしい。そこで、畜舎排水のたれ流しの条例は、県と市町村のどちら主管になるのかを教えてください。

高良: それは、条例ではなく法律ですね。

照屋: 河川周辺をきれいにするため、私たちは河川愛護会を作って取り組んでいます。木を植え、草を植えたのですが、樹木の選定によってどういう管理上の問題が出るのかを教えてください。

高良: 助成金の対象は、草刈りや除草、除去であり、樹木植樹は助成金の対象ではありません。県道路管理課の活動では植樹も対象になっていますが、河川課ではなっていないです。

照屋: うるま市水と緑を考える会の方では天願川沿いにサクラを植えて、1、2月はサクラ祭、5月はこいのぼり祭、夏には夕涼みや朝市などもやってみようと思うのですが、サクラを植えることはできないということですね。

高良: 河川区域に木を植えるためには河川法で許可が必要となるので、土木事務所に確認してください。

寺田: 最近、住民団体がサクラを植えるケースが増えています。その辺はどう考えておられますか。

高良: いいことです。申請すれば許可します。子供たちが比謝川でマングローブを採取する映像をテレビで放映していたのですが、こういう場合は注意しなければなりません。苗を植えるために採取しているといっていますが、河川区域内では許可が必要です。流水域内では河川管理者としては許可しないので、勝手に植えないように注意してほしいです。

椎葉: マメ科は育ちがいいが弱いですね。すぐ折れてしまします。日本全体ではニセアカシアがあり、ほっといてもどんどん育つのですが、すぐ倒れてしまします。

松本: サクラの木だから良いのですか。他の木でも良いのでしょうか。

寺田: お互いに相談しながら、調整しながらすればうまくいきますね。

嘉数: 以前、建設省の植えてもいい木のリストの中に沖



縄の木はなく、沖縄の木はダメといわれたのですが。

椎葉: 植えていい木、悪い木といった区別はありません。

高良: 水が流れるところはダメ、というのはあります。

●管理も市民で行なっていく、そのため使いやすい助成金へ

高平: うるま市水と緑を考える会の究極の目標は「市民による河川管理」です。「それぞれの川に適した木」を研究しています。管理も市民で行っていくというのが究極の目標です。ただ、植えるとなるとどうしてもサクラなどのイメージがあります。天願川で植樹活動を行った際、申請時に水の流れる所ではないが水位が上がるだろうということでクレームがきました。土木事務所から「私が生きている間はすべて管理します」と一筆書かされました。行政の許可がもっとスムーズになれば、管理もしやすいのですが。

崎山: 美ら海の会でも応募しました。申請書で感じるのは、要項が堅いことです。一見して認可は難しいと感じました。わいわい会は玉水ネットワークという行政との運動体にあるのでワイワイ会で申請したら、愛護会でないダメと断られました。しばらく放っておいて、愛護会として会を新しく作るのは大変だから既存のものでいいですかと確認すると、OKとなりました。その時によって対応が違います。活動する団体の意欲を

第2章

沖縄玉水ネットワーク
創設5周年記念座談会

創立から5年の活動を振り返って

育てないで、下請けとして扱ったら何の意味もないと思います。

高良:愛護会という名前をつけないといけないかということに関しては、すでに存在する会はその名前を使ってよいということになっています。要項もたしかに堅いです。県が各地域の振興会などに委託しているのですが、振興会から、先行して同様な助成制度を実施している県の道路管理課と要項を同じようにしてほしいと要望があり、その様になっているため形式張った感じになっているのです。

助成金や行政の予算の問題

寺田:助成金は、活動している人にとって使いやすさが基本だと思います。

高良:最初に一度登録しておく、次年度から登録はいりません。活動報告書だけです。また助成金も使いやすいうように、領収書は不要です。活動した面積などの報告をしていただければよいようになっています。

寺田:他に助成金を使われたところではいかがでしたか。

与座:手続きはスムーズでした。あまり考えるところはなかったです。県の方も対応はけっこう素早いんです。毎月草刈りをやっていて、報告書を近々出そうと思っています。それ程手続には、抵抗はないですね。

寺田:使い勝手は悪くはないですか。

高平:楽だと思います。まず、報告する義務がないことです。

高良:使った助成金の報告は必要ないです。

高平:申請もそれほど煩雑ではないです。



崎山:振興会と本庁の対応は違います。ルーチンが長過ぎます。

高良:予算執行上、助成金となると県からでなければ執行できないのです。

●危険な箇所での除草作業は土木事務所と連携を

仲地:除草作業で大変困っています。活動が活発な地域に対しては意見を聞いて、少し手直ししていただく予算など確保していただき、なるべく管理をする地域の方が活動しやすいようにしてほしいです。ネックは、管理道路です。ガードレールの外側に防護柵がついていて、それから法面があり植樹があって、そこに草が生えているような場合です。法面の傾斜がきついところは清掃作業がきびしいです。落ちかねない。もうひとつ、県で定期的に除草作業をしていますが、せっかく植えたサクラを根からカットされてしまっていることがあります。この辺は配慮してもらいたいと思います。もうひとつ改良してほしい点は、2面や3面張りの間知ブロックでは下に物が落ちた際、子供たちはロープにより下に降りてボールなど拾いに行っています。危険なので何か所かに階段を設置できないでしょうか。予算の問題はあるでしょうが、活発なところは多く予算を出して、地域住民が進んで管理できるかたちにしてほしいです。

高良:愛護会にお願いしたい点は、危険な箇所での作業を単独で行わないでほしいということです。川に下りての清掃は危険なので、土木事務所に連絡して連携してください。サクラが業者の清掃によって刈られたことについては聞いていませんが、おそらく雑草と勘違いしたのではないかと思います。県からの指示ではありません。階段の設置については河川課で検討したいと思います。

与那覇:平成2年に通達があり、多自然川づくりを行ってきましたが、なかなか進まない現状があったことから、平成18年以降は多自然型川づくりで全部やろうという通達が出され、緊急点検を行ない積極的に多自然型川づくりをすすめていこうとなりました。2面張りの箇所、今から改修するところであれば必要な場所に階段をつけるなど、県の方でワークショップ

をやっていますので、ご意見を上げてください。

新城:気になった点は、間知ブロックの中に生えている植物は取る必要がないのではないかとということです。3面張りの箇所の川底から法面にかけては、できれば昔あった植物が生えるようになっていけばいいと思います。土とコンクリートが一緒になって面ができていなら、そこに生えている植物は生かして使い、雑草として刈る必要がないのではないのでしょうか。

木を植える話ですが、道路と川の間に植える木と漫湖公園などに植える木では違うのではないのでしょうか。管理道路の近くの空地に木を植えるような時、そういうところにどういう木を植えていいのか、まだ沖縄で方針がないのではないかと思います。植物の専門家を入れて、基本的には潜在植生でもともと沖縄の川のそばにあった木などその地域に適するもの、サクラなど花が咲くもの、シークァーサーやグアバなど実がなるもの、クロヨナのような蝶や鳥の食草になるもの、小動物が増えていくものなど、みんなで考えていければよいと思います。



環境整備と生態系について

● 漫湖のマングローブ問題は環境省や国との連携が必要

玉城:県の方にお聞きしますが、漫湖公園対岸のマングローブが繁茂して、かなり陸地化しており、マングースもいます。木の上には白サギなどがいますが、小さい水鳥は寄ってこない感じがします。マングローブは間引きするか、あるいはまとめて取り去るかなど、線引

きする必要があるのではないのでしょうか。

高良:漫湖のマングローブは復帰直後あたりから植生したものであり、元々はない外来生物だと思います。饒波川流域では、とよみ大橋ができてから急に増えました。それと、右岸側、漫湖公園側は違法植樹です。誰かが植えたものが増えています。平成11年に地域住民から伐採してくれと議会陳情があり、平成18年度に上流を間引き伐採しました。昨年12月には下流側を間引き伐採しています。特別鳥獣保護区になっているため、20%以上の伐採には環境省の許可が必要で、60m幅をおいて20mを伐採しました。風通しもよく、ジョギングしながら景観を楽しめます。今のところ環境省が許可申請は出さないでほしいといっているため、今すぐ実施というのは難しいです。しかし、環境はかなり悪くなっていて、堆積や根元にゴミの漂着があり年に1、2回は除去していますが、いくら取っても増える状況です。また、陸地化は水鳥などの環境によくないです。水鳥はマングローブをあまり好みません。それで環境省も干潟の保全を考えて、最近調査を入れています。そういう全体の流れの中で、環境省と関係団体と連絡を取りながら、全体のコンセンサスを得つつ河川管理も含めてやっていこうと考えています。国場川では、マングローブをどれだけ取りのぞくかは将来



的に考えていきます。場合によっては、上の方は浚渫する時に許可をもらい、土砂とともに除去しようかと考えています。饒波川のあたりはものすごい量が繁茂し、陸地化してマングースやネズミもいます。環境省や関係団体と連携し、将来の方針を決めていきたいと思っています。

第2章

沖縄玉水ネットワーク
創設5周年記念座談会

創立から5年の活動を振り返って

寺田:先ほど川づくりの話が出て、仲地さんのところも多自然で検討中ということですが、めざしているのはどのようなことでしょうか。

●河川管理は生態系保全も含めて慎重な議論が必要

仲地:中部土木事務所と、中部土木事務所が依頼しているコンサルでとりまとめて、資料づくりやアドバイスをしています。白比川河口にマングローブを植えられないかというのは、昔あったからとの理由がひとつです。漢那ダムの管理で植えられているマングローブをイメージしています。先生のアドバイスを聞くと、マングローブが生えるためには泥が必要ということで、閉じて堆積を進めています。漢那ダムでオヒルギとメヒルギのタネをとってきて水にさしておいたら伸びてきますので、これを国場川で子供に行かせています。河川に愛着を持たせ、住民に関心を持たせるのが狙いです。

水害の恐れがあるため、基地を買収して河川を拡張し、勾配を緩やかにした上で護岸で人が降りられるような整備が上流で行われます。河川の管理道路には、サガリバナ、ユーナなど水に強い樹種を植える事が提案されています。昔の遊び場であったことや遊んだことは、体で覚えているものです。子供が身をもって接して覚え、良さを理解することで、河川と人間の関わりもわかってくるだろうという思いがあります。水質も100%戻らないにしても、次世代の子供にどう関わらせるかを大人としてやっていきたいです。そういう知恵を出し合いながら、今から作っていきます。ひとつのモデルのようなものができると、広がっていくのではないのでしょうか。そうなればいいなと思います。関心のある人が集まり、知恵をしぼることが大事だと思います。

崎山:玉水ネット5周年の意味を考えながら発言したいと思います。いい関係が作れてきたとは思いますが、5年が経ち新たな課題も出てきました。緊縮財政でどんどん予算が削減され、管理が合理化される方向になりました。そこに、愛護会もあったと思います。一方で、雑草の処理が追いつかないためにコンクリートを張っているところがずいぶん出てきています。かつての堆積が、どんどんコンクリートで覆われてきています。地球温暖化との関係を思うこともあります。合理化と多様性が

矛盾してきているように思います。私たちとしては、管理に対する新たな議論をする必要があります。管理を管理者側で考えるととにかく合理化の方に行ってしまう、かつて川の運動が求めてきたものとは違うものになります。かといって、予算がないことも考えなければなりません。そのあたりは慎重な議論が必要です。マングローブは、一面的な議論だけではとんでもないことになってしまいます。生態系としての評価をどうしたかということをやらないと、一面的に切るというのは非常に危険です。これまでの自分たちの努力がすべてムダになりかねない。そのへんを慎重にやっていきたいです。必要になれば、玉水ネットワークが中心になって討論会をすればよいわけです。そのあたりが非常にあいまいな感じがします。

寺田:せっかく玉水ネットワークが作られたのだから、いろんなテーマを持って取り組みたいですね。マングローブの問題など前から何度も出ますが、いつも堂々回りで結論に至っていません。玉水ネットワークの大きなテーマについてシンポジウムを行なうなど、いろいろなテーマについて双方で知恵を絞り出すことが必要かなと感じました。新城さんから出た街路樹の話も、沖縄な



らではのものがあつたことを議論すべきではないでしょうか。地域の川にあつた在来種を憶えていらつしやる方がまだおられるので、地域ごとの街路樹や川のまわりの堆積について、地域ごとに行政と市民が一緒になって昔の姿を振り返りながら作っていく場が必要かと思っています。このあたり、行政は玉水ネットワークの一員としてどうお考えでしょうか。

●地域住民やNPOとの協働の川づくりが必要

与那覇崎山さんの意見は、非常に重要な指摘だと思います。いま私たちも同じ方向に進んでいます。川づくりは、必ず多自然川づくりをする。それは何でも緩やかにするという意味ではありません。水の流れて自然に瀬と淵を作ることです。外側はコンクリートで内側は従来なら護岸を造っていたものを作らないようにする、といった川づくりをやろうとしています。管理については、維持管理計画を作ろうということで、実施計画として川の365日のカレンダーのようなものを作って管理していくとしています。予算が縮小され、維持管理するものがどんどん増えていく中で、住民やNPOと一緒にやらないとこれからの川づくりや管理はできないことをしっかり考えていくという方向です。

寺田:そういう意味では、お互い話し合うことができていないといけません。いま、玉水ネットは全体会議を年に何回か行っていますが、本当は地域ごとに小分けにした話し合いのテーブルがもっと必要ではないかと感じます。

椎葉:そこの川のことを一番知っているのは誰か、ということが一番印象に残りました。行政はある程度のことはわかっているが、そこの川にスポンがいたというような、川の日々のことを知っているのは地域の方です。そういう木があり、どう変わったとかですね。そういう方の知識や知恵と環境、流域環境や沖縄の環境の観点から見た場合の知識など、いろんな主体が集まって知恵を出し合うというのが必要というのは、全くそのとおりだと思います。これまで以上に有機的な取り組みができるよう、行政も行っていきます。

寺田:地域の川の主役は、地域の人です。行政の川づくりと合体させて行き、生きた情報をつなげていくことが必要ですね。高平さんが市民に河川管理が究極の目標というのは、そのとおりだと思います。市民が主役で、行政は市民に沿ったかたちで川の作り方を提示して、責任をもって住民として管理していくのが一番と思います。

高平:管理する時、市民グループは全部行政に向いています。この川をどういう風に作っていききたいのかという



住民同士のワークショップやディベートをもう少しやる必要があります。天願川でも不足しています。清掃活動は主に草刈りになるが、根こそぎ切っていくのはどうかということがあります。こいのぼりをするにあたって、見晴らしをよくするためほとんど切ったので、ある住民が自然破壊だと激怒していました。どういう形で作っていくか議論すべきです。地域同志のつながりが必要です。

●加速度的に増える土砂の流出を食い止めるために

和宇慶:「比謝川を蘇生する会」を代表して来ています。玉水は最初から参加してきました。関わってきたおかげで、いろいろな人の意見が勉強になっています。沖縄市のまちづくりの中で、川からまちづくりの提案をしています。比謝川は、水害が起点になっています。洪水から自分たちの生活をどう守っていくのかに関心が集まりました。川の周辺を美化して、沖縄市を世界1きれいなまちにしようと、川沿いの自治会や小中学校も加わっています。比謝川を中心としたまちづくりの会は、頻繁に行なわれています。自分たちが出した意見が反映されていくことが実感されています。今まではただの意見だったのが、少しずつ実現されていくのを実感しています。

新城:20年ほど前、衛生研究所でハブクラゲにさされて子供が死にそうになった時から海の生物の研究をするようになりました。定置網にハブクラゲがかかります。非常に驚いたのは、白いビニールは海の中でハブクラゲそっくりなことです。川の方から流れ込んでいて、これをウミガメが食べてしまう。沖合に行くと掃除

第2章

沖縄玉水ネットワーク
創設5周年記念座談会

創立から5年の活動を振り返って

ができません。マングローブには、ある意味では掃除がしやすいという効用があります。かなりのビニールがひっかかっています。沖合の生物にとって助かっています。現在、土砂が流れる量が加速度的に増えています。

話は変わりますが、波照間島に深さ5～6センチ、1～2ヘクタールの大型貯水池が9カ所ほどあります。農地改良事業を行うと、農土が少ないため大雨ごとに土が流れてしまいます。なのに、海はとてもきれいです。なぜかという、渇水対策の水と土砂が貯水池に流れ込むしかけになっている。この方式を活用できないでしょうか。残念ながら、報得川では子供が2人亡くなりました。東風平で流されました。上流が大雨のときは、保水力がないため泥水と一緒にぼんぼん流れます。河川課の方から聞いたのですが、島袋小学校の下に地下ダムを作っているとのこと。氾濫するところでは、波照間島の事例を取り入れられないでしょうか。雨が降らない時はその水を農地に返し、土砂は2、3年経つと下にたまるので、これも農地に返します。海にはほとんど流れ込まない島ができあがっています。赤土対策に活用できるのではないのでしょうか。ただ、これらは市民管理ではとてもできません。市民と行政がやることをそれぞれマッチングさせてやっていくべきだと思います。

与那覇 計画段階で川幅を広げるのか、上に遊水池的なものを作った方がいいのか、といったことを比較検討しながら進めています。ひとつの手段として、その例でいけば真嘉比遊水池や、比謝川の上流では下水道の関係で遊水池を作ることになっています。校庭の地下に遊水池を作る方法もあります。

今後、玉水ネットワークに求められるもの

寺田 もうそろそろ締めに入らねばなりません。今後、玉水ネットやってほしいこと、計画してほしいことなど、要望を出していただけますでしょうか。

●川の環境教育に携わる人材づくりを

崎山 川の地域管理が新しい課題として上がってきた

と思います。「私の顔」という意識がない限り地域管理はありません。久茂地川運動をしていた時、行政当局は県管理だといいました。それでは地域管理にはなりません。そういう壁を取り払わねばならないです。地域管理ができるということは、地域の人が川に対して地域のつながり、喜びを感じる必要があるということです。それがないと、地域管理はできません。そういう活動が玉水ネットワークにも要求されているのではないのでしょうか。



嘉数 国場川には3つの団体があり、ここはそのうちのひとつです。川だけの取り組みだけではなく、川に対するものと地域に対するものであります。川にも目を向けて、地域全体をみながら川にも取り組むことをやっていきたいです。

照屋 先月、環境フェアを行って、環境問題は大切だと思いました。子供たちとのつながりをもっと密にできるような体制づくりを、知恵を出し合ってできないかと思います。

寺田 環境教育については、「川のはなし」を玉水で作りました。もう少し活用されればと思います。それぞれの会で、「川のはなし」を活用する活動を強化していただくことをお願いしていきます。

高平 川での環境教育はすいぶん昔から行っていますが、継続していくにも指導する人材がいません。高齢化していることもあり、教える人も少ない。教育を簡単にできる手法を考える必要があります。環境教育では、生き物が子供への一番のポイントだと思います。水質の観

察会では、ほとんど来てくれません。親が引っ張ってきても、10名そこらです。水生生物の観察会では、一斉にやって来ます。しかし、生き物は簡単に教えきれません。簡単に教えるテキスト、マニュアルがあればと思います。



神里:検査は学者しかできないので、検査のやり方の勉強法など取り入れてもらえれば、自分たちでもできると思います。

学校とのリンク情報発信

新城:玉水はいくつかの団体のネットワークですが、環境教育で活動をやってきて、学校の先生はあまり来ません。小学生の登山のとき、学校の先生がついてきてくれて、植物を教えてくれたことで興味を持つようになったものです。ネットワークで教育長に申し入れて、総合教育でやるようなことをやったらどうでしょうか。南城市の富名越小学校の総合学習で、雄樋川の水質について2時間くらい沖縄エコクラブの人と関わる授業がありました。少し興味がある先生を教育すると、広がりかなり持てるのではないのでしょうか。

わいわい会では学校でエコクラブを作らせて始めています。連動すると動きが広がるのではないのでしょうか。

崎山:学校環境教育の支援で、糸満市の教育委員会の校長会などを通して働きかけアピールしたのですが、ほとんど全滅でした。校長から現場に声が行かないという実態を見ました。みんな忙しそうなのです。こ

の試みは失敗しましたが、担当していたラジオ番組で話したら、現場の先生から連絡が来ました。西崎、真壁小学校、西崎中学校は支援できました。個人的に呼び出して、こうこうすればこうできるということを実体的に伝えと、もっと取り組んでくれる可能性があるかも。校長に言うだけではうまくいきません。

寺田:行政のみなさんからもご要望などありますか。

●河川を考える団体以外の環境系団体とも連携

椎葉:今年はホームページのリニューアルを考えています。情報発信をいただければありがたいです。積極的に発信して、周辺の方の参画など期待しています。行政にとっても参考になります。

高良:玉水のみなさんや、河川愛護会の皆さんにお願いしたいことがあります。清掃や草刈りをお願いしていますが、それ以外への監視の目も向けてほしいことです。たとえば、報得川で他区域の居住者らしい人がチ



リを捨てて、山積みになっています。通るときや捨てている現場を見たら、注意してくださるようお願いします。以前捨てるところを見た人から電話があり、現場に行くときすごい量が捨ててありました。与座の区長にも日ごろから監視してほしいとお願いしています。捨てられていたものは県南部土木事務所で片付けて、禁止看板を立てました。

新城:その件については、南部保健所にも電話してください。

仲地:河川を考える団体だけではなく、他団体も含めてこういう話し合いができればと思います。マングロー

第2章

沖縄玉水ネットワーク
創設5周年記念座談会

創立から5年の活動を振り返って

ブの話も出ましたが、環境ネットワークなどでも清掃やマングローブの植栽などで環境をよくしようとしており、考えは同じだと思います。できれば意見交換会に呼んでいただきたいです。また、看板を立ててゴミの廃棄をなくすことに関しては、県と市町村では全く違います。市町村に頼むとすぐに「予算がない」といわれます。県管理の河川についてはやってくれるでしょうが、それ以外はそういう回答がくると思います。市町村もしっかり連携してほしいと思います。

古川:今日の放送は3月6日の河川シリーズと、本日のニュースでも取り上げます。学校現場の話がありましたが、私がスポーツを担当していた時代、監督に理科の先生がかなりいらっしゃいます。嘉手納中学校の女子バレー部は、比謝川の活動に積極的でした。ヤンキーと呼ばれる子供たちが、授業は熱心ではないかもしれないが、川のゴミ拾いにかなり積極的に参加しているそうです。参加するうちに、あいさつなど積極的にするようになるらしいです。定期的に行っているわけではないようですが、教師個人に直接アプローチすると学校教育の中でも意外に入りやすいかもしれません。バレーボール大会の反省会でそういう話が出てきました。そういうところと橋渡しができる人がいればと思います。理科の先生をリストアップするとも必要かも知れません。情報をお願いします。



●団体の活動や情報をホームページで発信

高平:玉水ネットワークの将来のあり方として、今会員が13団体と固定していますが、もう少し広げること

を提案したいです。

寺田:牧港川の話が出ましたが、今回牧港川の浄化に取り組んでおられる団体の方もオブザーバー参加していっていいと思います。用事がありもう帰られたようですが、参加したいという要望がありました。総会までに、川の活動をしているいろいろな団体に声かけしていくのも必要かと思いますが、そういう情報を事務局に寄せていただくことが大事だと思います。ホームページの話が出ましたが、みなさんご覧になられたことがおありでしょうか？パソコンをやっていない人も会員には結構いらっしゃるようですが、事務局に各団体の活動や情報等を寄せて頂くとホームページに掲載されますので、そういう情報提供もお願いしたいです。

時間がオーバーしたので、きょうの座談会はこのへんで中締めとしたいと思います。このあと懇親交流会がありますので、ぜひ続きの意見交換を行なっていただきたいと思います。事務局にマイクをお返ししたいと思います。

森:皆様、活発な議論をありがとうございました。最後に総合事務局の椎葉河川課長に閉会のごあいさつをいただきたいと思います。



閉会あいさつ

椎葉:まだ議論半ばだと思います。引き続き懇親会の場で、ナマの声を聞かせてほしいと思います。本日はどうもありがとうございました。

第3章 沖縄玉水ネットワーク 5年の歩み

年 度	総 会 等	報 告 会 ・ 勉 強 会 ・ シ ン ポ ジ ウ ム	情 報 発 信 そ の 他
平成14年	■6月10日 発足準備会開催 嘉手納水道局マルチメディアセンター ■7月15日(月) 沖縄市水道局2F会議室 第1回沖縄玉水ネットワーク設立会議 ■8月 設立イベント準備会	■9月16日 「沖縄の水と川を考える」フォーラム主催 場所:具志川市立川崎小学校 進行:徳永敏朗 (沖縄総合事務局河川課水資源開発調整官) 内容:6分科会に分かれ討議、その後全体会議	「沖縄の水と川を考えるフォーラム」について～「沖縄玉水ネットワーク」発足を記念して～ 三輪賢志 (沖縄総合事務局開発建設部河川課長) 「河川」2002-10月号掲載
平成15年	■7月 第3回全体総会 沖縄市水道局2F会議室	■10月19日 「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」 場所:JA宜野湾 研究発表:①石垣新川川における多自然型川づくり設計 新垣昭宏(沖縄県八重山支庁土木建築課) ②羽地大川における多自然型川づくりの評価について 高里昭宏(沖縄県北部土木事務所) 講演:多自然型川づくりに関して 島谷幸宏(国交省九州地方整備局武雄河川事務所) 循環型農業の事例報告:寺田麗子(沖縄玉水ネットワーク副代表) ■10月以降 「市街地における水辺空間再生調査」実施 (比謝川・天願川・報得川)	「市民と行政の真のパートナーシップ実現にむけて」 沖縄玉水ネットワークの取り組み 新城晴伸 (沖縄総合事務局開発建設部河川課調査係長) 小波津川川づくり協議会への参画 (高平・寺田副代表が協議会メンバーに参加) 沖縄総合事務局建設HPで紹介 川の歴史記録活動調査編集会議
平成16年	■8月10日(火) 第1回総会 北谷町役場	■10月16日(土) 「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」 場所:浦添市民会館 研究発表:①多自然型川づくり「内川の設計について」 渡真利尚樹(沖縄県南部土木事務所) ②小波津川における住民合意の創意工夫について 嶺井直樹(沖縄県中部土木事務所) 講演: ①「生命を育む水環境を～多自然型川づくりにできること～」 福留脩文(株式会社西日本科学技術研究所長) ②「宇栄原小学校の環境学習」 横山芳春(那覇市立宇栄原小学校校長)	3月 『市街地における水辺空間再生調査』～(天願川・比謝川・報得川)報告書発行 川の歴史記録活動調査編集会議 平成17年3月 『おきなわの川のはなし』発行 『たまみじ』沖縄玉水ネットワーク新聞 創刊号発行 小波津川川づくり協議会への参画(高平・寺田) 2月16日 河川整備基金助成事業助成申請 ('川の原風景調査'概要版及び「総合学習」副読本印刷配布活動)

第3章

沖縄玉水ネットワーク 5年の歩み

年 度	総 会 等	報 告 会 ・ 勉 強 会 ・ シ ン ポ ジ ウ ム	情 報 発 信	そ の 他
平成17年	■8月24日(水) 年次総会 北谷町役場	■10月22日(土) 「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」 場所:沖縄市民会館 研究発表:①「奥川支川チヌフク川リュウキュウアユを呼び戻すために」 小波津英慎(沖縄県北部土木事務所) ②「饒波川の計画における住民参加の創意工夫について」 又吉一誠(沖縄県南部土木事務所) ③「北部ダム事務所における環境保全対策について」 杉田泰俊(沖縄総合事務局北部ダム事務所) 講演:近自然への挑戦 木戸規詞(豊田市都市整備部まちづくり担当専門監) ■12月4日(日)水辺の散乱ゴミ指標評価調査(天願川)を実施 ■12月11日(日)矢作川方式による濁水対策の実演と展示 場所:中城湾港自由貿易地域		5月27日 河川整備基金助成事業 継続的助成
平成18年	■9月19日(火) 年次総会 うるま市石川地域活性化センター	■8月4日(金) 久茂地川沿川の利活用についての現地調査・意見交換会 ■11月3日(金) 「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」 場所:カルチャーリゾートフェストーネ 研究発表:①大保川における多自然川づくりについて 小波津英慎(沖縄県北部土木事務所) ②河湖林における近自然工法の河道整備(宮良川) 瀬長雄二(沖縄県八重山支庁土木建築課)		5月29日 河川整備基金助成事業 継続的助成
平成19年	■8月22日(水) 事務局会議 沖縄建設弘済会会議室 ■10月5日(水) 年次総会 カルチャーリゾートフェストーネ	■9月8日(土) 報得川水質調査 ■2月27日(水) 現地見学会の開催(長堂川) ■2月27日(水) 5周年記念座談会		6月29日 河川整備基金助成事業 継続的助成
平成20年			9月 ホームページリニューアル完了(予定) 9月 『沖縄玉水ネットワーク5年間のあゆみ』 完成(予定)	

第3章 発刊図書



沖縄の水と川を考えるフォーラム (平成14年9月16日開催)

平成14年9月16日に開催された「沖縄の水と川を考えるフォーラム」の内容をまとめました。



多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会 (平成15年10月19日開催)

平成15年10月19日に開催された「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」の内容をまとめました。



市街地における水辺空間の再生調査 (平成16年3月)

比謝川・天願川・報得川における水辺空間の再生調査の内容をまとめました。



多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会 (平成16年10月16日開催)

平成16年10月16日に開催された「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」の内容をまとめました。



多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会 (平成17年10月22日開催)

平成17年10月22日に開催された「多自然型川づくりに関する研究発表会及び講演会」の内容をまとめました。



川のはなし

子供達から大人まで広く沖縄の川について知ってもらおうと、沖縄の「川のはなし」を作成しました。
沖縄県内の川の一覧や概要をわかりやすく掲載しています。

第3章

新聞報道に見る
沖縄玉水ネットワークの動き

琉球新報 H14.7.16朝刊



沖縄タイムス H15.7.13朝刊



沖縄タイムス H15.7.31朝刊



沖縄タイムス H15.8.22朝刊



琉球新報 H17.9.3朝刊



沖縄タイムス H17.9.5朝刊

